

## 2021年度（第16回）素粒子奨学会「中村誠太郎賞」候補論文の募集

現在、日本の基礎科学の分野では、大学院ですぐれた研究業績をあげた新進気鋭の研究者といえども、「常勤の研究職」につくことが極めて困難になっております。この事実は、広い意味での素粒子論（原子核理論、宇宙物理理論を含む）の研究分野で、とりわけ深刻です。この状況を踏まえ、当該分野の研究を行っている「常勤職についていない若い研究者」に、感動を与え研究意欲を鼓舞する目的をもって、「中村誠太郎賞」を2006年に創設いたしました。「常勤職についていない若い研究者」とは、大学院生、ポスドク、任期が5年以内の常勤職に付いている者としません。

今後受賞者の中から、広い意味での素粒子論分野の中心となって当該分野をリードする人、あるいは、当該分野の伝統をのりこえて新天地を開拓する人が現れることを、切に望むものであります。

賞に冠した中村誠太郎博士（1913--2007）は、湯川秀樹門下の素粒子物理学者であり、二中間子論、ベータ崩壊の理論など、優れた素粒子理論の研究を行いました。加えて「素粒子論研究」の創刊、「読売湯川奨学資金」や「素粒子奨学生」などの奨学事業を半世紀以上に亘って行い、若い研究者を激励し続けました。この功績によって2001年3月には「第1回素粒子メダル功労賞」を受賞しています。

本奨学会は、かつて第2次世界大戦後の困難な時代に素粒子論研究の発展に「読売湯川奨学会」の果たした役割をひきつぎ、発展させるために1972年に設立致しました。「読売湯川奨学会」の奨学生の中からは、ノーベル物理学賞を受賞した小柴昌俊氏など、世界の物理学に大きな貢献をした多くの人材が輩出しました。

素粒子奨学会は、広い意味での素粒子論分野の若い研究者が当面している状況を打開する一助とするとともに、伝統をのりこえて新天地を開拓する若い世代の育成に資することを目的とし、民間の篤志家から寄付していただいた基金をもとに、活動して参りました。素粒子論グループの有志の方々からの寄付も寄せられました。

本会の事業内容は奨学金の支給その他の奨学事業であり、1972年から2005年まで、素粒子奨学生の募集を33回実施し、延べ150名の研究者に対して奨学金の支援を行いました。現在各分野で活躍している人たちの中には、本奨学会の助成を受けた者が多数含まれています。

近年各地において、期限付き組織やプロジェクト、競争的資金による研究員などのポスドク募集が一時的に急増したり、学振応募資格の変更、助教の任期付きポストへの転換など、社会情勢の変化は大きいものがあります。

しかし、依然として常勤職につくことが困難であるという、本奨学会設立当初からの深刻な状況は続いています。一方残念ながら、2006年には、財政的理由により奨学生を採用し奨学金を授与するという事業を続けることが困難になりました。このような背景をもとに、本奨学会は、若手研究者を奨励するという所期の目的を新しい形で達成するために「中村誠太郎賞」を設立し、若手の支援を継続して行ってきました。

2021年度（第16回）「中村誠太郎賞」を別紙規定により募集いたします。

なお、本奨学会の仕事は、下記の委員によって行われています。

名誉会長 小沼通二  
顧問 九後太一

会長 菅本晶夫  
副会長 加藤光裕 日笠健一  
運営委員 今村洋介 中務 孝 森川雅博  
委員 奥山和美 北野龍一郎 中尾憲一 日高義将

事務局： e-mail： [soryushi.shogakukai@yukawa.kyoto-u.ac.jp](mailto:soryushi.shogakukai@yukawa.kyoto-u.ac.jp)

(1) 東工大事務局

〒152-8551 東京都目黒区大岡山2-12-1

東京工業大学大学院理工学研究科 今村洋介研究室内 素粒子奨学会事務局

(2) 東大駒場事務局

153-8902 目黒区駒場3-8-1

東京大学総合文化研究科 加藤光裕研究室内 素粒子奨学会事務局

協賛： 湯川記念財団

以上

## 2021年度（第16回）素粒子奨学会「中村誠太郎賞」応募規定

### 1. 応募資格

広い意味での素粒子論（原子核理論、宇宙物理理論を含む）の研究に従事する者のうち、大学および研究機関（これに準ずるものを含む）の常勤のポストについていない者。これには大学院生、各種のポスドクおよび任期5年以内の常勤職にある研究者を含む。但し他の賞の受賞対象となった業績をもって、中村誠太郎賞に応募することはできない。また、同じ研究業績をもって他の賞と多重応募することは望ましくない。

### 2. 応募手続

#### 2-1 提出必要書類

(A) 応募シート（様式は応募サイトからダウンロードして下さい）

(B) 応募論文 1編。

(1) 論文の最初にアブストラクトをつけること。

(2) 長さは30ページ以内。

これは審査の都合上、極端に長い論文は困るという意味の目安である。  
したがって、短い論文でも、やや長い論文でもよい。

(3) 共著論文は受付けない。共同研究にもとづく論文であってもよいが、その場合には共同研究の内容および本人が寄与した内容をできるだけはっきりさせる説明書をつけた上、本人が寄与した部分に重点をおいて、単独で書き下ろすこと。

またすべての共著者から、応募者が当該論文をもって中村誠太郎賞に応募することの承諾書（自署、形式自由）をもらって、オリジナル（スキャンファイルも可）を事務局宛に送付すること。

(4) 単著の場合は、学術雑誌等に投稿中あるいは掲載された論文でもよい。

(C) 論文リスト。共著論文の場合は、共著者名を必ず記入すること。

(D) 研究歴（これまでどのような研究を行ってきたかの説明）

#### 2-2 応募方法

応募受付期間中に下記のURLから、

(A) 応募情報の入力、

(B) 応募シート、応募論文、論文リスト、研究歴のアップロードを行うこと。

応募用URL：<https://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~soryushi.shogakukai/>

（短縮URL：<https://bit.ly/soryushi>）

応募受付期間：2021年4月10日（土）～4月30日（金）

応募論文は、pdf ファイルひとつにまとめることが望ましい。

### 3. 授賞予定人数 原則として2名以内

4. 授与するもの 賞状および賞金20万円

5. 審査

本奨学会委員が論文を審査し、協議によって決定する。ただし、委員以外の方々にもレフェリーを依頼する。

6. 受賞者の発表

2021年9月。本人に通知するほか、素粒子奨学会ウェブページ、素粒子論グループメーリングリストその他に発表し、未投稿の受賞対象論文は、「素粒子論研究」に公表する。

7. 授賞式および受賞者講演会

2022年3月の日本物理学会開催の折に、授賞式および受賞者の講演会を設ける。

以上